

BE WILD

2009.02 活動報告

日本ボーイスカウト阿見第1団

<http://www.bs-ami.net>



● 団スキー訓練の朝（草津高原 YH にて）

ボーイスカウトと野外活動

スカウティングは、何故学習の場を野外に求めているのでしょうか。

それは・・・

- 自然へに畏敬の念を感じ
- 感謝の心の芽生えを促し
- 「ちかい」「おきて」の実践の場
- 手・足・体で学ぶ体験学習の場

として、スカウトの発達や成長にとって大きく総合的な効力を持っているからです。

大自然の神秘さや、厳しい自然現象に接することによって、自分の存在を客観的に、そして、ありのままに知ることができます。それが生きていく心の根源になります。

スカウティングにおけるハイキングやキャンプは、欠くことの出来ないプログラムであり、自然の中で活動することによる肉体的な発達、班の仲

間との活動による協調性、責任感、リーダーシップなどの社会性の発達、野外生活技術の修得、科学的な知識や思考といった知的な発達、大自然の驚異に触れることによる精神的発達、などを促していきます。

スカウトたちは、成長期の中で「静」よりも「動」、「閉」よりも「開放」を望んでおり、またそれが青少年たちが成長していくためにはたいへん重要なものなのです。

自然は、スカウトたちの憧れである未知の世界への、また、知らない場所への冒険です。そこには自然観察の機会もあり、新鮮な空気もあります。精神的にも肉体的にも、野外には大きな価値があるのです。

このように、ボーイスカウトにおける野外活動は、それ自体が目的ではあ

りません。ハイキングやキャンプという活動を通してスカウトたちのより良い成長を促しています。

これらハイキングやキャンプは、スカウトたちにとって大変魅力ある活動です。彼らのスカウティングへの参加の原動力は「活動が楽しく魅力的だから」です。楽しさや魅力は年齢とともに、また経験とともに変わっていきませんが、スカウト活動にはあらゆる場面で楽しめる要素がたくさん用意されています。



団委員会の 2 月

●「パパさんキャンプ」お父さん、待ってます!!

◎団委員会と育成会では、4月以降に、阿見第1団キャンプ場エリア67の整備とパパが主役になるためのキャンプ教室、そしてお父さん同士の交流を兼ねた「パパさんキャンプ」を開催した

いと考えております。後日、団または各隊から連絡を回しますので、ぜひご参加ください。なお、名称はパパさんキャンプですが、ママさんの参加もちろんOKです。

◎阿見1団の活動や組織、指導者やスカウト、保護者の関与などに、疑問・質問・要望やご意見、それに相談したいことがありましたら、遠慮なくご連絡を下さい。どんなことでも秘密厳守で対応します。

☎ 841-4258 団委員長・若泉

BVS 隊の 2 月の活動

●ビーバースカウト隊

幼稚園年長～小2：8月

● 鬼は外、福は内 2月8日

2月8日(日)、ビーバー隊は、エリア67で、鬼のお面作り、その後、全員で豆まきをしました。ゲームでは、大なわとび大会をやり、最初はみんなぎこちなかったけれど、だんだんうまくなってきていました。一緒に活動していたカブ隊にもいいところを見せられたかな。また、みんなで作ったお面をつけて、大声で豆まきをしました。スカウトの元気さで、エリアの鬼は退散したようです。



● B-P 祭 (カーレース) 2月28日

2月28日(土)、エリア67で、カーレースを行いました。最初のうちは、クルマをうまくコントロールできず、まっすぐ走れなかったスカウトもいましたが、何度か練習を重ねるうちに、それなりに形になってきました。保護者とスカウトの連合チームで、全員で競争。スカウトよりも、大人の方がばててしまい、隊長も筋肉痛です。



CS 隊の 2 月の活動

●カブスカウト隊

小2：9月～小5：8月

● 寒い冬はスポーツで熱くなる 2月8日

今月のカブ隊は2月8日(日)に、エリア67において「スポーツで熱くなる」をテーマに活動を行いました。モーニング・ゲームの靴飛ばし競争から始まって、大縄跳び、ラケット・ボール、羽子板対決、大声コンテスト、くっつき飛び出し鬼ごっこ、などのゲームを、ルールを守って、時にはペナルティも加えて、スカウトもリーダーも楽しく行いました。当日は天気は良かった

のですが、風が結構強く、気まぐれな風に苦戦したゲームもありましたが、そこはボーイスカウト、状況に応じた対応でうまく風を利用し、上手にゲームをクリアした組もありました。

昼食はキャンプ・ファイヤー場で、たき火を団委員の平田さんに準備してもらい、一品ずつ持ち寄った食材で作ったカブ鍋を配給し、たき火を中心にしくて、みんなが一つの輪になり、暖かく

ておいしい昼食になりました。団委員の平田さん、カブ鍋を作っていただいた保護者の皆様、ご協力ありがとうございました。

それで・・・ですね、実は隊長のパソコンが壊れてしまい、そこに保存していた写真が全部なくなってしまいました。そのため、今月は写真無しです。すみません。その代わり、団所蔵の**カブ隊写真アーカイブ**から3枚ほどご覧ください。



BS 隊の 2 月の活動

●ボーイスカウト隊

小 5 : 9 月 ~ 中 3 : 8 月

● 奥多摩・高水三山ハイキング 2月8日

毎年恒例「冬の登山」は、奥多摩・高水三山（高水山、岩茸石山、惣岳山）に行ってきました。

朝 6:30 に集合し、電車を乗り換えること 4 回、3 時間以上かけて出発駅の軍畑駅にたどり着きました。スタートは、一昨年行った陣馬山に似ていて、最初車道を歩き、それから山道に入っていました。今回は、3 つの山を縦走しましたが、きつかったのは最初の高水山山頂までで、それ以降は、わりと歩きやすかったと思います。風も例年通り強かったですが、意外と暖かく、早い春の訪れが感じられました。早いグループは、2 時半ごろには、御嶽駅に着き、最後は隊長で無事 15:00 すぎに到着しました。



● 手旗ゲーム 2月21日

今回は、手旗を使ったゲームを行いました。久しぶりにスカウトらしい活動ができました。まだまだ手旗の扱いは上手ではないけれど、ハンドブックを見ながら一生懸命文章を伝え、そして解読しました。結構、面白かったんじゃないですか？

午後は、ロータリークラブ奉仕ということで、車の駐車案内をしました。



VS 隊の 2 月の活動

●ベンチャースカウト隊

中 3 : 9 月 ~ 高 3 : 8 月

● ベンチャーラリーに向けての活動

○月△日

時は某月某日。場所はエリア 67。風が吹きしきる寒空の下、算数の講師 S 副長の指導のもと、ベンチャースカウトたちの頭は、時間計算の足し算、引算に飽和状態であった。

聞こえる声は、溜息とうめき声……。

なぜ、そんなことをしていたかという 3 月に実施される「ベンチャーラリー」の練習を行っていたのである。

ベンチャーラリーとは何か。ビーバー・カブラリーのような楽しいイベントプログラムとは違い、ウォークラリーとオリエンテーリングを合わせてそれに競技性を持たせたもので、4 人でチームを作って行う、頭脳と体力ともに要求される競技なのです。簡単に言えば車の競技にあるラリーを「人」で行うもので、この茨城で生み出された物なのです。その栄えある第 1 回がこの阿見の地で開催されるのである（詳しくはボーイスカウト茨城県連盟 HP を参照していただきたい）。その練習の

ためのコースが、阿見のエリア 67 周辺に作られたのでした。

開催地が阿見ということもあり、阿見第 1 団ベンチャーとしては、やはり狙うは優勝。そりゃ当然でしょう。他の団のベンチャー隊もこの初回優勝を虎視眈々と狙っているのです。各チームも秘密裏に行動を開始している様子で、各チームの動向も気にしつつ、わがベンチャー隊も練習を開始したのでした。

練習コースを実走してわかったことがあります。

「面白い!!」

いやぁ本当に面白いのですよ。何が面白いかというと、これはまさにゲームなのです。それも知力、体力、技能、そして念密な計画とチームワーク。どれか一つ欠けても勝てないゲームなのです。どれだけ自分に課せられた任務をきちんと確実に果たせるか。これが勝利への第一歩なのです。



ハイキングというとおおよそしゃべりをしながら歩くのですが、今回は違いました。まず、自分の任務は何なのか。また、その任務を果たす上で足りないものは何なのか……。練習中は終始そのような会話ばかりしていました。それと、秘密アイテムのアイデアの出し合い(へ。へ)

たかだか練習なのですが、なぜか久しぶりにワクワクしてきました。なんか、本番が非常に楽しみです。

スカウトクラブ

●スカウトクラブ報告

1. スカウトクラブ集会（今回は懇親会が中心）を平成21年1月24日（土）午後6時～9時、阿見町「日和（ひより）」にて会員10名参加し行いました。

●話し合いの中で、今年のスカウト祭にスカウトクラブでは、スカウト達がわくわく「ドキドキ」するような野営法（サバイバル？）体験コーナーを設けることになり、より具体的に役員会で詳細を詰めていくことになりました。

2. スカウトクラブ役員会を下記日時に行います。平成21年3月7日（土）午後6時～ 阿見中央公民館・会議室

●スカウト祭支援内容や今後のクラブ活動について協議します。

～追伸～

●役員会で協議した内容等は後日メール致します。

●今年の団主催スカウト祭の進行状況が分かりませんが、スカウトクラブ員も今年は自分たちの経験を通じた支援をしたいとはりきっています。

阿見1 TOPIC

●阿見1は県で3位

「3位」・・・むむむ?? さて、何のことでしょう？

今年の年次登録が3月1日に行われました。これは日本連盟を通じて、世界のボーイスカウトの仲間として加盟登録をする手続きです。阿見第1団のスカウトと指導者は、まず団に所属し、茨城第5地区そして、茨城県連盟の一員となりますが、ボーイスカウトのメンバーとして認められるには、この日本連盟への登録が必要なのです。

茨城のスカウト人口は約3,500人で、阿見第1団は、つくば第1団、守谷第1団に続いて登録人員が数ある「市」を上回って、県内第3位なのです。

また、指導者の研修（実修所）修了率、スカウト出身の指導者率、各種行事への指導者奉仕率では、いずれもこの十数年トップレベルを保っています。

そして、キャンプ場エリア67もまた県内No.1のキャンプ場となりました。

ちょっと自慢してしまいましたが、これは阿見町・美浦村、保護者のみなさん、地域のみなさんのおかげです。あがとうございます。

阿見1 TOPIC 2

●飯塚隊長、村田隊長が県の指導者のつどいで講演



2月28日（土）。水戸の茨城県青少年会館大研修室において、茨城県連主催の「指導者のつどい」が開催されました。今回のテーマは「海外派遣は楽しい」で、中島県連盟コミッショナーの進行で、ボーイ隊の飯塚隊長が「第21回世界ジャンボリー」の茨城隊の派遣隊長として、ベンチャー隊の村田隊長が「県連オーストラリア派遣」の指導者として、そして、ひたちなか第2団の長妻久朝ボーイ隊隊長が「茨城県韓国友好交流派遣」「韓国ジャンボリー」の茨城隊の隊長として、それぞれの海外派遣の素晴らしさと意義、そして、派遣がスカウトの内面的な成長を大きく促すことを、それぞれの立場から講演しました。

3人が一様に述べたのは、未知の地で、何をするにも自分たちの力で、チャレンジし、結果を出さなければならないこと。そのための、計画、準備、行動、現地の人々の心、仲間の大切さ、指導者の支え、感謝、信頼と絆・・・等々、そこに実際に行って体験しなければ得られない、見なければ知り得ない多くのことがあるってことに気づいたこと。『実践躬行、精究教理、道心堅固』の大切さを実感できたこと・・・でした。

それでは、講演の中から、ちょっと紹介しましょう。

●飯塚隊長

未来へ向かって（隊長として最後に）

今回の世界ジャンボリーは、世界が広いということ、ものすごく実感できた大会であった。このことは、隊の隊員全員が感じていることではないだろうか？

私は51歳という年齢でそのことを体感し、ひととき大きな感動を得た。その点、隊員たちは幸せだ。大きな未

来があり、まだまだこれから大きな可能性を秘めている年代で、こんな素晴らしい体験ができたのだから・・・。

君たちがこの経験をステップにして、次なるチャレンジに挑んでいけば、当然私も含めた今の日本の大人は大きく越えられるはずだし、この国の新しい世代を支えていく貴重な人財になっていけるはずだ。だから、今回の経験を大きな糧として、未来に大きく羽ばたいて欲しい。

今回のようなことを経験できるところが他にあるとしたら、オリンピックぐらいではないだろうか？ やはりボーイスカウトは素晴らしい。ボーイスカウトで良かったと思った。だから、隊員諸君は、ボーイスカウトという組織が大きなチャンスを与えてくれたということを決して忘れることなく、君たちの後輩スカウトに、その素晴らしさを伝えていって欲しい。そして、1人でも多くの隊員がリーダーとして活躍し、スカウト活動に貢献してもらいたいということを願ってやまない。

私自身も、今回の大会が自分のスカウト人生の集大成というのはおこがましいと学んだ。

だとしたら、この経験は、自分のスカウト人生の新たなスタートだ。マラソンでいえば、折り返し点かもしれない。100周年にもう一度初心に帰って、今回の経験を踏まえて、今後のスカウト活動を頑張っていきたい！

●村田隊長

スカウティングはスカウトのものだ。スカウトたちが自ら考え実行し、失敗し、それを糧に自らを高めていく。目の前の食べ物が美味しいかどうか・・・見ただけではわからないが、食べれば解る。スカウティングも同じだ。そう、Learning by Doing なのだ。

